

一月二〇日

八時前起床。九時過チエックアウト。タクシーで那覇空港へ。少し時間を得たので、待合いロビーでスケッチ。沖縄の一月は曇天が続くそうで灰色の風景だ。十時四〇分JTL五一便で東京へ。今雲海の上に浮いている。雲の上はいつも光が溢れているんだ。昼過研究室に戻る。プロジェクト・ミーティング数件。十七時半中川研博士論文審査会。十九時人事小委員会。建築学科は難問山積である。将来を誤らぬ様にしなくては。二十一時半修了。二十三時前世田谷に戻る。二川幸夫が二件の物件を見てくれた様で、マ、厳しい事言われるのであろう。しかし、建築作品が駄目になったら全てが崩壊してしまうのだから、全力を尽くすしかない。一つたりとも手が抜けないのを自戒する。

一月二十一日

十時石山研の内モンゴルの博士課程海日汗の博士論文審査会。吉村作治、中川武、古谷誠章各先生の審査をいただき、色々な指摘を受けたが、OKとなる。「ゲルの方位についての研究 古代四ハナゲルにおける方位システムの解析」の研究で、ゲル発生のコスモロジーに連なる重要な研究である。建築の方位の研究は世界各地の遊牧民の住居に展開できると面白いのだけれど、誰かやってくれないか。海日汗はこれで自信を持ってモンゴルに帰れる。彼女の研究が益々深まり、モンゴル民族の尊厳の基盤の一つにな

ってけると嬉しい。

仙台アトリエ海佐々木氏と新木場のプロジェクトの件で連絡。プロの力を最大限に注入しなくてはならぬ物件である。GA「住宅プロジェクト二〇〇四」には友岡さんの山小屋、猪苗代前進基地を出展することに決めた。十三時半中川研、博士論文審査、小野邦彦君の「古代ジャワのチャンデイの伽藍構成に関する研究」。ヒンドウ教寺院の非対称伽藍について。興味深い論文であった。十五時再び中川研、東大の鈴木博之先生も同席、倉方君の博士論文。「伊東忠太の建築理念と設計活動に関する研究」審査。修了後、鈴木さんとコーヒーを5分。プロジェクトの打ち合わせを一つずつさせて、十七時研究室をたつ。十八時森川と五反田TOC内トモコーポレーション。新木場プロジェクト打合わせ。大卒の合意に達する。二〇時半終了。少し早かったが世田谷村に二十二時過戻り。二十三時過寝てしまう。